

令和8年度第1学期始業式式辞

おはようございます。令和8年度も、全校生徒そろってスタートできることを嬉しく思います。さて新年度、新学期に際して、まずは皆さんに問いかけたい。「穎明館とは」と言われたら何と答えますか。様々な答えがあると思います。時に私は、「穎明館とは EMK である」とシンプルに答えます。穎明館生の皆さん、今日は1年のスタートにあたり、「あなたならではの EMK を語れ」、「あなたならではの EMK を語れる1年にしよう」と呼びかけたい。

さて皆さんご承知の通り、EMK は E (Experience 経験)、M (Morality 道徳)、K (Knowledge 知識) という教育の3指針を示しています。全国広し、多くの学校があれど、EMK で教育理念を語る学校は、穎明館だけでしょう。

まず E (Experience) 経験について、皆さんは穎明館での6年間に実に多くの経験をすることができます。まずは毎日の授業、これは日々の経験です。それから学校行事、宿泊学習だけでも2年生で広島、3年生で奈良京都、そして4年生ではアメリカ・カナダへ全員で行きます。グローバルの時代、希望すれば、イギリスのイートン、チェルトナムでのサマースクールや、オーストラリアへのターム留学のチャンスもあります。また文化祭、体育祭、そしてクラブ活動等、これらはすべて皆さんが自主的に、進んで運営・実行されてきています。「生徒主体」のよき伝統です。今年度も授業、学校行事、クラブ活動などに積極的に取り組み、豊かなよい経験を数多く積んでください。そしてあなたならではの E (Experience) 経験を、あなたの言葉で語れる人に成長してほしいと思います。

次に M (Morality) 道徳、人として踏み行ふべき道です。創業者、堀越克明先生は「紳士たれ、淑女たれ」と言って、細かい校則を設けませんでした。穎明館生は、自分自身を律することのできる自覚と能力を持っている、と信じていたからです。私も信じています。自律、自分を律するよき伝統を継承して行ってほしい。そこで、あなたが紳士として、淑女として大切にしていく徳目は何か。あなたならではの M (Morality) 道徳を語れる人に成長してほしいと思います。

ちなみに私は「優しさ」を大事にしています。優しさの語源は、「瘦す」(痩せている)にあると言います。皆さんは、他の人のことで食べられないほど心配し

た経験、身が細るような思いをしたことはありますか。家族や大切な人が病気になった時など、きっとそんな思いをしたことがある人もいますよね。人の痛みに敏感で、他人を思いやることのできる、優しい人であってほしい。いじめというのは、優しさから一番遠いところにあります。穎明館ではいじめを許しません。ともに学ぶ仲間として、優しさをもってお互いに尊重しあってください。

さらに K (Knowledge) 知識、かつて 16 世紀イギリスの思想家 F. ベーコンは「知は力なり」と言いました。近代の知識はまさに力となり、人間に自然支配の力を与え、文明社会も進歩してきました。21 世紀の現在、環境問題をはじめとして、その反省はあるにしても、知が力であることは確かなことです。また、生成 AI の進歩はめざましいものですが、あくまでも「人が AI を使いこなす」という視点で、「たたき台」として活用すべきです。プロンプト（質問、命令）の具体性や工夫次第で生成されるものの質や、活用の幅も大きく変わってきます。だからこそ皆さんには、AI に振り回されるのではなく、何事にも主体的に取り組む姿勢を大事にしてほしい。穎明館の授業は知の宝庫です。先生方が、知の世界に誘ってくれます。ぜひ様々な豊かな知の世界を楽しみ、あなたならではの K (Knowledge) 知識、知の世界を主体的に語れるようになってほしいと思います。

さあ、「あなたならではの EMK を語れ」、「あなたならではの EMK を語れる 1 年にしよう」——今年こそやみましょう。挑戦の 1 年にしましょう。

ところで、今年度も皆さんには大いに読書に励んでほしいと思っています。読書はあなたならではの EMK の世界を広げてくれるはずです。今日は、キリスト教作家の遠藤周作、『人生には何ひとつ無駄なものはない』から、その一節を紹介したい。あなたならではの人生、あなたならではの EMK には何ひとつ無駄なものはないという話です。

尊敬する小説家フランソワ・モーリヤックの最後の作『ありし日の青年』に、次のような言葉がある。

「ひとつだって無駄にしちゃあ、いけないんですよと、ぼくらは子供のころ、くりかえし言われたものだ。それはパンとか蝋燭のことだった。今、ぼくが無駄にしていけないのは、ぼくが味わった苦しみ、ぼくが他人に与えた苦しみだった」

この言葉を読んだ時、思わず「これだな」と思った。私が会得したものがそのまま、そこに書かれていると知ったからである。

ひとつだって無駄にしちゃいけない——と言うよりは、我々の人生のどんな嫌な出来事や思い出すらも、ひとつとして無駄なものなどありはしない。無駄だったと思えるのは我々の勝手な判断なのであって、もし神というものがあるならば、神はその無駄とみえるものに、実は我々の人生のために役に立つ何かをかくしているのであり、それは無駄どころか、貴重なものを秘めているような気がする。これを知ったために、私は「かなり、うまく、生きた」と思えるようになった。

繰り返します。「ひとつだって無駄にしちゃいけない——と言うよりは、我々の人生のどんな嫌な出来事や思い出すらも、ひとつとして無駄なものなどありはしない」。

正直なところ、私は皆さんと同じ中学高校の頃、自分の狭い了見で、物事や学び、経験を切り捨てようとしたことがありました。苦しい学びや経験、つらい思い出に蓋をして楽になりたいと思ったのかもしれませんが。それでも少しずつ人生経験を重ねる中で、現在では、「どんな出来事にも意味がある。人生に無駄なものは何もない」という心境に至っています。あなたならではの人生、あなたならではの EMK には無駄なものは何ひとつありません。今年度も一つ一つ新たな出会いを大切にしていきましょう。

さて、式辞の結びは、創立者堀越克明先生の定めた校訓とモットーです。

新6年生、40期生の皆さん、いよいよ受験学年になりました。あなたならではの受験勉強、大学受験にできるように可能性を信じて、強気で挑戦する1年にしましょう。進学校穎明館では、受験生こそが学校のリーダーです。その頼もしい姿を後輩の皆さんも見習って行ってください。

穎明館生の皆さん、今年度も校訓、モットーを胸に、常に目標、意識を高くもって努力することを期待します。

【校訓】

「 人生は何ごとに依らず その目標は高く設定するべきである
その推進には 高い知性と理性を必要とする 」

【モットー】

「 仁智は無窮 穎才を研きよき地球人たれ 」

以上、令和8年度第1学期始業式式辞といたします。